

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

税がなければ生きていけない

山鹿市立菊鹿中学校

三年 松永 灯里

私達は平日学校へ行く。今は引退したけれど、土曜日には時々部活動の大会があった。ある日租税教室があつて、税金について学んだ。何となくは知っていたが、改めて税金の大切さに気づいた。「毎日税金に助けられているんだな。」と、税金について関心が高まった。

ふと昔のことを思い出した。嫌でも忘れられない小さいときの記憶。その時はお婆ちゃんと妹と一緒に車に乗って出かけていた。楽しく会話をしながら道路を走っていた次の瞬間、荷物を積んだ大型トラックと私達が乗っていた車が激突した。突然のこと過ぎて混乱した。まだ幼かった私は「すみません！救急車を呼んで下さい。」と叫んでいた。お婆ちゃんは痛そうにしている、妹は血を流している。幸いにも私は軽いケガだったようで、二人を心配し救急車を呼びつづけた。

しばらくたつと、救急車が来た。すぐに、病院に着いたが、妹の状態は悪く、頭にガラスが入っていたため、ドクターヘリを使って大きな病院へ転送された。私とお婆ちゃんは検査を受け、家に帰ることになった。その後妹も無事に退院、みんな元気になることができた。後で聞いた話だが、事故の後は警察を初めたくさんの方がこの事故の処理に関わってくれたらしい。今思うと税金があつたから救急車が駆けつけ、妹はドクターヘリで転送される等迅速な対応をしてもらえ、今の元気な私達がいる。もしみんなで扶助する税金の制度がなかったら、どうなっていただろう。税金を納めている人たちに感謝しなければならぬ。

納税は、日常生活の中で皆で平等に行っている。その普通のことこそがその時のように人の命を救い、皆の生活を支えている。あまり考えることがなかったが、例えば災害などの復興や今のコロナ対策、それに加え景気への支援や私達が通う学校の維持・管理など身近なところで、税金の果たす役割は大きく無くてはならない大切なお金だ。だからこそ、関心を高め、感謝しながら生活していくことが大切だ。税金がなければ、私達家族を初め、たくさんの人たちの命がなかったかもしれない。これからも税金に助けられることがあると思う。だからこそ大人になったとき、きちんと税を納められる人になりたいと思うようになった。